The Japanese Society for Connective Tissue

# 故 村田克己先生を偲んで

日本結合組織学会名誉会員 村田克己先生におかれましては，平成13年12月29日，肺癌再発のため享年72歳で逝去されました．

村田克己先生は本学会の前身である結合組織研究会の発足当初（昭和44年）より総務幹事，のちには総務担当理事として学会の運営と発展に終始盡力されました．一方特にムコ多糖を中心とするご研究の成果を第1回研究会総会以来毎回発表され，本学会に貢献されました．ここに謹んで哀悼の意を表し，心よりご冥福をお祈り申し上げます．

先生は昭和4年7月17日 水戸市にお生まれになり，水戸高等学校を経て，東京大学医学部医学科を昭和29年3月に卒業され同大学医学部付属病院で研修後，30年8月に医師免許を取得されました．さらに同大学大学院生物系第一臨床医学に進まれ，35年3月に博士課程を修了，36年1月に同大学より医学博士の学位を授与されました．

昭和35年4月 東京大学医学部内科文部教官助手，36年6月 ワシントン大学医学部内科研究助手，37年12月ロマリンダ大学内科主任研究員兼カリフォルニア州立大学医学部研究員，38年9月 ロマリンダ大学医学部内科助教授になられ，41年10月 東京大学医学部内科物理療法学教室助手に復帰されました．42年1月，静岡県藤枝市志太病院内科にご出向，43年2月に東京大学に帰られ，54年6月には同大学文部教官医学部内科学講師，さらに同大学内科外来医長を経て，59年7月から62年3月まで，東京大学専任講師を務められました．

昭和63年4月に東京芸術大学教授（同大学保健センター勤務）となられ，平成9年3月に同大学をご退官後，東京農業大学客員教授として最後まで，後進の教育に盡力されました．

先生のご研究はムコ多糖を中心にプロテオグリカン，コラーゲン，エラスチン他の細胞間マトリックスを主な対象とした生化学に関するものであります．正常者，各種膠原病，動脈硬化症，遺伝性結合組織疾患，Werner症候群等の全身各部位の血管，臓器，組織，尿，関節液，血液につき，加齢変化を含め，上記物質の変化の実態を次々に解明し，論考を加えられました．ご発表の論文原著は国内諸学会誌は勿論，Nature（London）他の著明な欧米学術誌・学会誌にも極めて多数掲載されており，枚挙にいとまがありません．因みに論文250余編，原著90余編，総説100余編にものぼっています．

特に高速液体クロマトグラフィー法に改良を加えつつ，分解酵素法も併用して各種材料のムコ多糖の解析を進められた成果のご発表は，昭和60年代の本学会総会において，会員に多大な感銘と影響をあたえるものでありました．さらに本学会では，例年のご発表の他に，第21回，第23回総会の2回にわたって細胞間マトリックス成分に関する特別講演を担当され，シンポジウム「結合組織と老化（第10回）」，「血管の結合組織（第14回）」を編成・司会され，第11回と第17回の総会ではワークショップも編成・司会されるなど，リーダーとして多大の貢献をな



NII-Electronic Library Service

The Japanese Society for Connective Tissue

されました．

先生の学会でのご活動は，本学会以外でも多くの学会において，ご研究成果の発表に止まらず，評議員（日本リウマチ学会，日本老年病学会，日本脈管学会，日本動脈硬化学会，日本臨床免疫学会）を歴任され，日本内科学会，日本アレルギー学会，日本生化学会等の会員としても活躍されました．さらに国際的にも，ご滞米中からご晩年に至るまで目覚ましく活躍され，ヨーロッパ結合組織学会（独・仏・英）会員，国際結合組織学会員として毎年のように多くの国際会議でご発表を続けられました．昭和52年には基礎関節疾患奨励賞を受けられました．

このようなご活動の傍ら，先生は絵画にも秀でておられ，外国ご出張の折々のスケッチを元に完成された油彩を主とする個展も開いておられます．またクラシック音楽にもご造詣が深く，ヨーロッパご出張の折りにはよく本場の音楽祭や演奏会を堪能されていたご様子でした．多面的な人間性が，あるいは，先生の長年にわたるご活躍を支える裏付けであったようにも拝察されます．

なお先生のご略歴・ご業績に関する貴重な資料を，深いお悲しみの折りにも拘わらず，奥様の村田淳子様からご提供戴きましたことに対しまして，紙面をお借りして厚く御礼申し上げます．

村田克己先生，昨年の第33回学術大会での先生の，変わらぬ真摯なご発言のお姿を拝見したのが最後になってしまいました．長年にわたるご尽力に対し，学会員一同悲しみとともに厚く感謝申し上げます．どうか今後の学会の新たなる発展を見守って下さりつつ，安らかにお休み下さい．

元東京医科大学病理学客員教授
渡辺洋望



NII-Electronic Library Service